

みんなの森について

1 林望台周辺

- リスが見れるスポット、バードウォッチングができるスポットがあるといい
→定点カメラを設置して QR コードでいつでもだれも見れるようにすればいい。SNS をうまく活用する。またリスとの出会いやすようにエサや綱の設置など工夫をする
- 野鳥観察小屋、バードバス付き、他にもせせらぎがあると野鳥はうれしい
→みんなの森は水が少ない、鳥のお風呂も作ってあげると羽を洗いに必ず鳥も来る
- 林望台をツリーハウスに
→現在活用されていない林望台をツリーハウスにしたら子供も遊べる
- ツリーハウスなど点在してたら楽しそう、歩くだけじゃない楽しみがあれば
→伐採した木を活用したり、野鳥観察できる場所があったらいい
- 林望台の活用
- 生き物を知る森、バードウォッチング等、暗視カメラ設置

2 林内

- 大芝総合サイトに「出会う学ぶコーナー」、検索システム・出会投稿マップ（リス・クロツグミ）、データの蓄積
→この森ならではのアプリを作り、散策しながら「これなんだ？」というものを調べられるものがあればいい。参加型にして、大芝でしか見れないようなリスやクロツグミなどを発見してプロットしていく。これをポイント制にして景品をすれば出会う・学ぶ可能性の仕組みを作れたらいい。
- 香りを楽しむ森、香りを楽しめるゾーン・エリア
→桂など落葉しても香りを楽しめる樹木を植える
- 香りの木や実が食べられる木を増やしてほしい
→クロモジやランコウバイなど
- 森のシンボリツリー、夫婦松、もみの木、霜柱の木など
→“今花が咲いていますよ”というなことを web 発信する
- 林内放送設備、Wi-Fi

→危機管理・安全の為に管内放送が流れる設備を

■CO2 を減らす環境ゾーン、エリートツリーを植える

■歩道利用のルールを決める、歩く人走る人のエリア・コースをわかる

■「大芝高原森林部」、休日のクラブが地域の移項？なので、クラブを補足したらどうか

■異世代間の交流、看板をつくったり、イベントを企画したり、地域に直係？して森をつくっていく仕組みづくり

→大芝高原森林部活動みたいなものを作って色々な活動をする。カラマツの小屋を部室にしたりする。

■木の名前や草花の名前、生息している生き物の情報の看板があるといい（はなもく散歩とかスマホ、QR の活用もあったら）

■学校林については、小学生、中学生の考えを基に森を育成していく

→学びの場にして（ex:子供たちは木を切って火をたいたりできる場所）、子供達が自分たちで考えて森を作ってほしい

■これからの地球環境を考える野外学習の森にしていく

■ウッドチップは歩きやすい、継続

→下を掘って砂利をひいて水はけをよくしてウッドチップをまく

■歩道の足場の整備（安全性、木の根や段がある）

■ササユリなどは人気があるので守り育てていけた方がよい

■元からある植物を守る（ササユリ、ヤマユリ、ヒトツボクロ、シモツケ、タマアジサイ、イチヤクソウなど）

→好きな人が沢山いると思う

■ササユリ見学場所（保護区）

■植生の保護（ツツジ、コアジサイ、タマアジサイ、ギンリョウソウ、きのこ）

→特に 5～6 月のギンリョウソウなど

■全体的に明るい森になるといいな（広葉樹とか）

■松大木の特別保護区を設ける

■歩道の工夫？冬場雪の後凍結でツルツルになり危険

■この森は人間だけの森ではないので、全ての生物が生きられる森を目指した施業をしていく

■オオタカなどの保護（住みやすい森）

→木を切っちゃうと巣が作れなくなっちゃう

■ビジターセンターを作りたい（案内するところ）

→案内や自然観察の提案など出来る。

■赤松小屋にペレットストーブ（アカマツの不要材を使って）、緑陰カフェ、緑陰図書などをやって冬でも人が集まる場所をつくれたらいい

■夏散歩道が日陰になるとありがたい

■森全体はヒノキを高木とする針広混交林として育成していく

■赤松伐採後は5年間手を入れず、実生木の育成を図り、その後本格的に整備していく

■山菜などがとれるように（体験ゾーンの的な）

→ガイドをつけて大人も子供も楽しめる場所に

■（土の上で）寝ころびのできる場所

→土の上ということが大切

■デッキ広場づくり、50㎡くらいの広さ（樹木、どんぐりの木などが真ん中にあるデッキ）

→休んだり・軽体操が出来る場所を作りたい

■赤松小屋の活用、自然体験イベントやツアーの拠点になったらよい

■みんなの森、セラピーロードのSNS発信もあったら（WEB発信）

→「みんなの森」の公式アカウントがあるといい

■ハンモック、ブランコ（ハンモックつっている木に印をつける）

■電源、水道（下水道）の整備

→イベントを行うと飲食が伴う。出店やキッチンカーが来た時必要になる電源・水道の整備があればもっと人が集まるのではないかな

■小屋を使う（ガイド付きの体験ツアー）

■イベント（セラピー、木工工作）をやってほしい

■イベント（音楽フェス）の開催

→高校生や社会人が集まるきっかけになる

■体操とかするなら通行人の目が気になるので少し見えないように

■駐車場から森への安全なアクセス

■ヒノキ林、下層はコケの森（しっとりとした）

■暗い森を大切に（多様性）サンコウチヨウなどの希少種

■ 夜星、夜空、星を楽しむ会を開けるエリア

→あえて森の中で見る

■ 信大農学部入口のような夜を楽しめる光の確保

■ 焚火のできる森（家族向け週末のみ、3組限定）

→無秩序にやるのではなく、限定のスペースを設けてイベント的な意味で行う。

■ 草木染の森

→ほとんどの植物から色が出るので、施設整備で出た草木を使って草木染を行う。

■ 案内板（今どこにいますということが電話で伝えられるような・・現在地が判る表示：例）への3番）

→救急車など呼ぶときなど、場所をうまく伝えられるように

■ 森の中の遊び場（ウッドチッププール・イメージはボールプール、秋は枯れ葉プール、春は新緑プール）

→場所は森の中がいい

■ 障害者、お年寄り、体の不自由の方も気軽に利用できるよう道の整備（ベンチ、いろいろな型があるといい）

→部活動で手作りで作る

■ ログハウスの宿泊施設、なべくら高原

■ 明るい森になっていくと思うので四季を感じる木々を植えてほしい

3 農道沿い

■ 駐車場の整備（人の集まりやすい場所、村外の人も）

→人をもっと呼ぶ為には広大な駐車場が必要

■ 木製ベンチの作成

→要望が多い。西駒・千畳の絶景が見ながら休憩できる。

■ ベンチ、ウッドデッキを作ってほしい

その他

・ 木登りが出来る木

・ 森林部で SNS を活用しみんなの森の様子をアップする